

◆◇◆ 余談／評価機構なるもの ◆◇◆

病院では、既に評価機構に依る機能評価なるものが定着しつつあります。

そこで医療提供者側が自発的に、また第三者を交えて、診療所に至るまで機能評価を行うおうとの考えもあります。

その信憑性や公正性の為には、当然第三者に依る判断が必要となります。利害が抵触することがあってはなりません。Player と Umpire が同じでは全く信憑性に欠けますし、第三者と雖も何処かからの天下りや横滑りを受け入れたり、Syndicate を構成するだけでは、誰の為のものか分からなくなります。また理想を言えば、その発案者は機構設立後には深く関与しない方が望ましいとも考えられます。

歯科診療所の開設者で、他施設との差別化の為なんらかの評価を得たいと考える人達も多いようですが、一般に機能評価なるものには、経営管理が適切か否かという項目が含まれます。すなわち経営分析とその開示が必要で、例えば病院において、疾患別の原価計算など細部に亘って適切な管理がなされていることを要求されます。如何なる形で評価を得たいと考えようが、全ての項目の実効性を担保するのは経営状態です。話が逸れますが、特に個人立診療所の場合、住居や子弟の教育に関して高額のローンがあるなら、それは簿外債務以外の何ものでもないでしょう。逆説かも知れませんが、皮肉と受け取って頂いても結構です。病院から診療所に至るまで医療機関の経営に厳しさが増して来ているのであれば、余計に患者の安全や安心の為には経営管理の重要性が高まっていることは認識せねばなりません。

本年4月より都道府県はホームページ上で医療機関の情報の公開を始めます。これもやがては発展すると考えることが出来るのかも知れません。保険者も医療機能の分化を提言し、医療機関の選別の手法を模索していると言われます。

それが望ましいか否かは別として、我々の側からも動きがあつて然るべきとするならば、如何なるものがあるのか。また踏まえておかねば為らないことは幾つもあるでしょう。

公平性、公正性、真実性の為には、要は大半の者が同じ方向を見る事が出来るか否かで

February20, 2008 / Zep wrote